

「酒気帯び」をでっち上げた管理者 管理者の仕事は何か？

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

管理者は、私たちの仕事がスムーズに進み、働きやすい職場環境にするために居ると思いませんか。それが、管理者の仕事だと思いませんか。

しかし実際は逆の状態です。最近では、チェック票を持った管理者がホームで列車の到着や発車やエレベーターの乗り降りまでも監視しています。

例えば、車両故障が発生したときに、運転士が落ち着いて処置できるようにバックアップするための訓練が、知悉度確認の場になっています。だから訓練が苦痛に感じるのです。本来、ここが少し不安だから訓練で聞いて完璧にしようと感じなければならぬのに、訓練で管理者に質問をしたら、「時間がないので後で」「提案で」「自己啓発で」と言われてはたまりません。

例えば、車掌の「発車30秒前」確認喚呼が「30秒前」にできないダイヤになっている列車もあります。安全確保のための確認や喚呼などの基本動作は、私たちの先輩が 苦い経験 をする中から実践的に確立してきたものです。だから、仕事と体になじんでいたのです。しかし昨年8月の見直しは、運転取扱いや時間僅少による余裕のないダイヤ状況など、実際の乗務実態を全く抜きに「こうすれば 理に叶っている」、と管理者が机上で判断した、一方的で勝手な「判断」から作られたものといえます。

これがJ R東海の、東二輪の社員管理 = 管理者の仕事の実態で「チェック票」はその典型的なものです。だから、ますます仕事がしづらい職場になってきているのです。実態に合わない基本動作を勝手に作り、その通りにやっているかをチェックし試験をするのが、管理者の仕事 となっているのです。

国労・ユニオン組合員のみなさん

J R東海 労 東二運 分会は、分会書記長が「酒気帯び」とされ、減給処分を受けたことに対し、取り消しを求め裁判を進めています。会社が決めた基準を下回ったにもかかわらず「複数の管理者が酒臭を確認」としました。

職場を働きづらくしている管理者が「酒気帯び」をでっち上げたのです
私たちと共に、働きやすい職場にするために声を出しましょう